

就労意欲が旺盛なシニアはICTサービスを積極的に利用！

～就労意欲とICTサービス利用状況から見えてくるテレワーク等への可能性～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果 1 : 就労形態とICTサービスの利活用状況

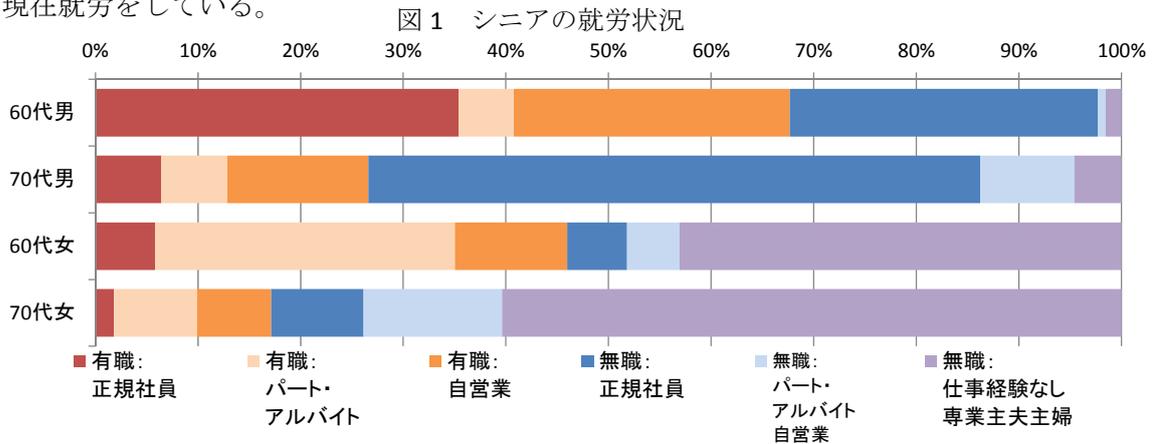
調査結果 2 : 就労意欲とICTサービスの利活用状況

■ 調査結果

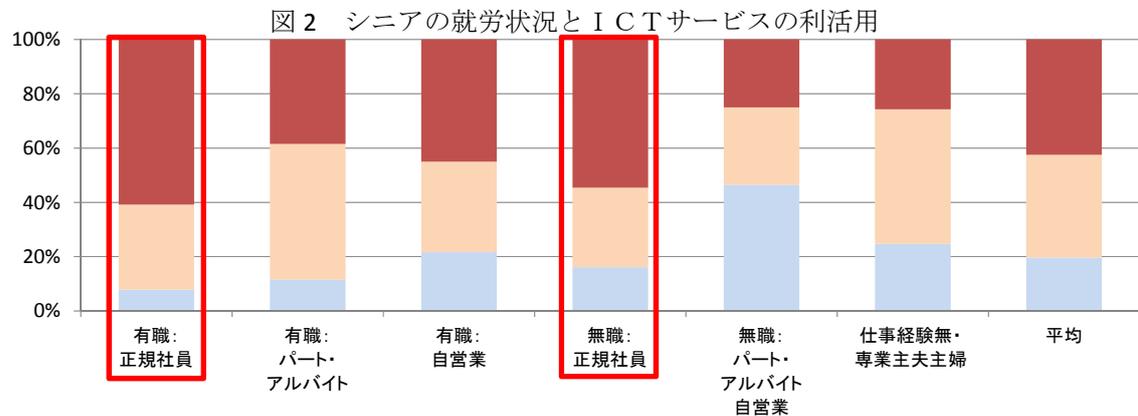
1-1 現在又は引退前に関わらず「正規社員」がICTサービスを積極活用

団塊の世代が70歳を迎えようとする今、労働者不足はより深刻な社会的課題となっている。シニアの中には、仕事に就きたいという意欲を持ちながら、現在就業していない人もいる。ではどれくらいのシニアが就労に意欲を持っているのか。また、就労に当ってICTがどのような役割を果たせるのか、モバイル社会研究所がおこなった結果を元に考えていく。

まず、現在の60・70代の就労状況は、図1の通りである。男性の49.3%、女性の34.4%が現在就労をしている。

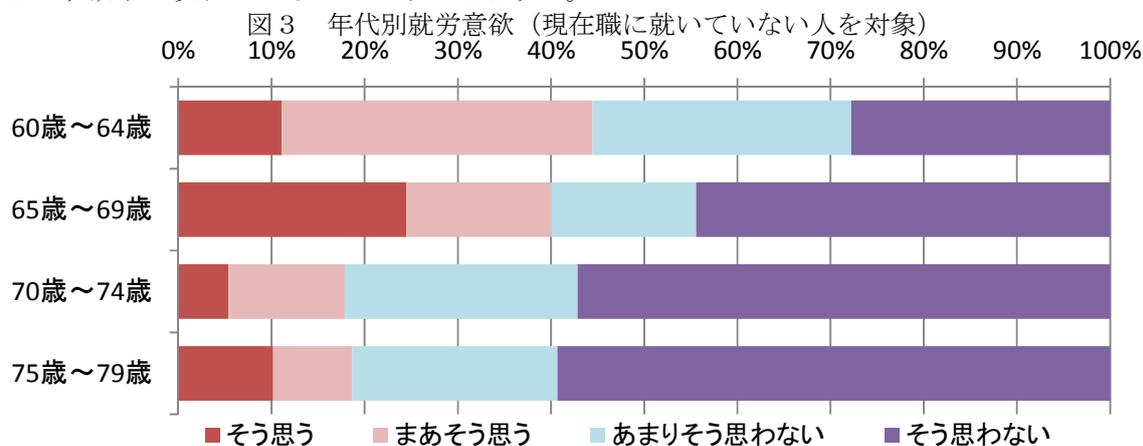


次に就労状況と、ICTサービスの利用の状況を見ると図2の通りである。ICTサービスを積極的につかっている人は現在有職・無職に関わらず「正規社員」であった。

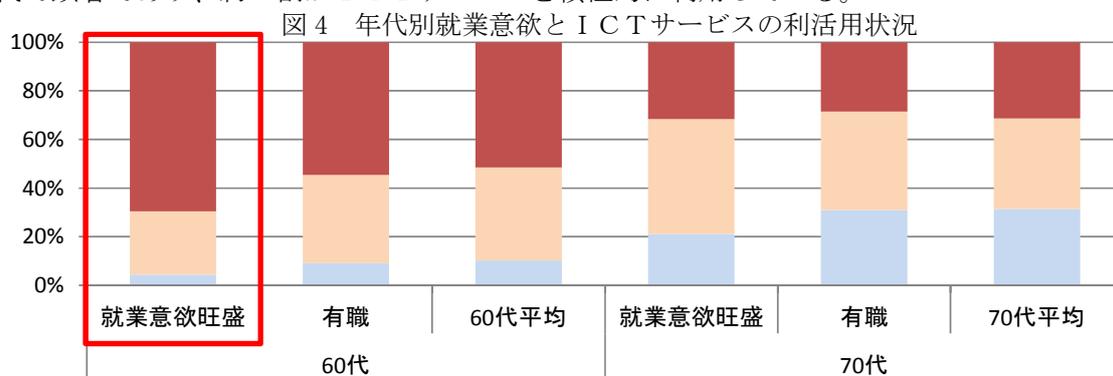


凡例) ■ SNS更新、動画視聴など積極的利用 ■ メール、情報検索など基本サービスのみ利用 ■ 利用していない

現在仕事に従事されていないシニアを対象に、今後仕事をしたいか意欲を伺った。その結果が図3である。60代の約4割、70代の約2割が就業に意欲を見せた。この就業に意欲を見せたシニアの特徴をみると、「経済的ゆとり」は他のシニアと変わらないが、「時間的ゆとり」が非常に高い。一旦は現役を終え、余暇の時間が持ったが、やはり何だかの仕事に就きたいという欲求が現れているのではないだろうか。



この就業に意欲が旺盛な人（図3 そう思う、まあそう思うに該当）に現在のICTサービスの利用状況を聞いた結果が図4である。就業意欲が高い人は、SNSの更新発信や動画・音楽の視聴などを積極的に利用している人の割合が高い結果を得られた。特にその傾向は60代で顕著であり、約7割がICTサービスを積極的に利用している。



凡例) ■ SNS更新、動画視聴など積極的利用 ■ メール、情報検索など基本サービスのみ利用 ■ 利用していない

この結果から、即就業にICTが繋がる訳ではない。しかしながら、今後テレワークなどが推進され、シニアも積極的に活用できていけるのかを検討した時に、今回の結果は就業意欲がある人は少なくとも現にICTサービスを積極的に活用しており、その素地ができている可能性が示唆された。

■ 調査概要（調査名 経年概況調査：調査方法 訪問留置調査）

調査時期：2017年1～2月 調査対象：関東（1都6県）在住、60～79歳男女
 標本抽出法：QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地（都市規模）で割付506サンプル回収

■ 問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com